

# ひとりひとりを大切にする千葉市政を!

千葉市議会議員 (中央区)

議会報告

## 亀井たくま ニュース

発行 亀井たくま 2012年初夏の便り号 (通算第13号)  
〒260-0042 千葉市中央区椿森3-13-8 TEL/FAX 043-255-8108 携帯090-3694-4173  
ホームページは「[亀井たくま](#)」で検索をお願いします! メール DQG06110@nifty.com

### 大地震に備え、防災対策を質問!



3月市議会が2月20日～3月16日の日程で開催されました。亀井たくまは3月9日(金)に4回目の一般質問(持ち時間30分)に立ちました。毎回「緊張感ある真摯な議会」を目指し、「一問一答形式」にて、質問・提案を行っています。以下、質問・提案の内容について、抜粋してお知らせいたします。

議会活動もおかげさまで2年目を迎えました。今年度も精進してまいります!

#### ①重点密集市街地(狭あい道路地区)対策について(都市局・消防局)

##### —— 道路拡幅よりも、機能的な防災・減災対策を優先すべき! ——

- Q 「椿森3丁目」「稲毛東5丁目」で示されている「重点密集市街地整備計画」は「道路拡幅」「住宅の不燃化支援」「住宅の耐震化支援」「公園への耐震性貯水槽の設置」の4つの改善策が示されているが、対策の優先順位は。
- A 地域の実情や住民の皆様の意見を踏まえて、必要なものから取り組んでまいりたい。
- Q 道路拡幅は住民の負担も重く、時間もかかる。地域内の公園への「耐震性貯水槽」の設置をまずやるべきでないか。
- A 平成24年度は道路拡幅に向けての測量と道路設計を実施し、住民に説明してまいりたい。
- Q 沿道住民は、拡幅による不安にさらされている。補償のあり方が不透明だが、補償の基本的な考え方はどのようになっているのか。
- A 道路区域となる土地・建物・工作物が対象。不動産鑑定や損失補償算定基準により算定する。
- Q 地元対象の住民説明会では「住宅が建たなくなるような残地はないようにする」との説明があったが、本当にそのように取り組んでいくのか。
- A 道路設計にあたっては、住宅が建たなくなるような残地がなるべく発生しないよう設計を行っていく。
- Q 両地区では確実に建物に大きくかかってしまうような所もあり、「負担がないようにする」というのはかなり難しいと思う。本当に少しでもいい方向に改善をしたいと思うのなら、計画では道路幅は5メートル以上となっているが、狭いところでなぜ「5メートル以上」なのか。負担の少ない4メートルではダメなのか。
- A 市道の認定基準が5メートル以上なので、5メートルを基本としている。
- Q では、市内の他の11の密集市街地も今後、このような方法でやって道路拡幅をやるのか。
- A 状況が異なるので地区ごとの特性を考慮し、検討する必要があると考える。



- Q 「平等な負担」ということを考えて、「土地区画整理」という方法ではなぜできないのか。
- A 早期改善が見込まれることから道路拡幅が有効と判断した。
- Q 密集市街地は「災害時の円滑な消防が困難」とされているが、2つの「重点密集市街地」を含め、13の「密集市街地」では市の消防としてどのように対策をしているのか。
- A 事前に消防車両の進入の可否や建物の隣棟間隔、消防水利の配置状況などの現地調査を実施し、警防計画を作成している。この警防計画を近隣消防署で共有し、現場訓練や図上訓練を行い、不測の事態に備えている。また5000リッターの「水槽付消防ポンプ自動車」等の部隊を追加出動させるとともに、消防ヘリコプターにより迅速かつ的確な対応の強化を図っている。地域の自主防災組織への啓蒙も行っている。
- Q 古い住宅が多い密集市街地においては、道路拡幅よりも住宅の耐震改修こそが必要と思う。整備計画で「耐震化の促進」が挙げられているが、具体的にどのように進めるのか。
- A 地区内の住宅の耐震化に向け、耐震改修制度の活用やさらなる補助制度の導入に向け、支援策の充実を図っていく。
- Q この計画を進めるのであれば、丁寧に住民と接していかなければならないと思う。地域住民は納得していないし、計画を知らない人も多い。住民アンケートの回収率も悪いし、中身が活かされていない。市として、これまで行われてきた住民説明会をどのように総括しているのか。
- A 地区の改善が必要なことは理解いただいていると思う。
- Q 今後の測量・設計についてはどのように行うのか。地元の意向・状況を十分把握したうえで行うべきと考えるが、いかが思うか。
- A 詳細な現地の状況を把握した上で、住民の負担を極力軽くすることに配慮し、道路設計を行っていく。
- Q 最後に、沿道住民からは明確な反対の意志もあるわけだが、そのことについてどのように考えるのか。
- A 反対の意見があることは理解している。粘り強く説明をしていきたい。

### 亀井はこう考える！

現在、狭あい地区とされる「椿森3丁目」「稲毛東5丁目」では、道路拡幅を含めて、整備計画が示されています。地域で賛否両論があるのですから、住民への丁寧な対応が市に求められます。

人口減社会を迎え、今後、地域で世帯の代替わりが起こったり、空き家が増えたりと、町並み・コミュニティ自体も変化してくるものと思います。そうした将来的なビジョンをきちんと考えたうえでの整備でなければならないと思います。

道路が広がれば便利ですが、一般的に狭い道路が多い中央区では、道路拡幅により、家・土地を奪われる市民・地域も出てきます。とくに高齢世帯が新たな場所に移住しなければならないとしたら、それは酷だと思えます。住民の意向をしっかりと尊重することが必要です。道路を広げても、古い家屋が立ち並ぶ地域では、家が倒壊すれば意味がありません。市として、家屋の「耐震診断」「耐震化・不燃化の促進」の支援こそ必要です。道路拡幅以外での「防災・減災対策」を地域から作っていけるよう、私も精進いたします。

### 密集市街地は13地域

- ・中央区・・・椿森1、3丁目、院内2丁目、道場北1丁目、道場南1、2丁目、弁天2丁目、葛城2、3丁目、旭町、亀井町
- ・稲毛区・・・稲毛東5丁目、穴川2、3丁目、稲毛2、3丁目
- ・花見川区・・・検見川町2、3、5丁目、幕張町1、2、3、4丁目。

中央区では、この他に「仁戸名」「生実」「寒川」「大巖寺」「登戸」など、道路の狭い地域がたくさん存在しています。

## ② 防災対策・災害時要援護者支援について（総務局）

——— 高齢者・障がいのある方の避難体制の整備を！ ———

Q 高齢者の方は登録しやすいが、障がいのある方はプライバシーもあり、制度登録をしにくいのではないと思う。カードに登録してもらった割合はどうなっているか。

A 高齢者の7割、障がい者の4割が登録している。(平成23年度登録の一部抽出調査による)

Q この結果は当事者として「障がいのことを本当にわかってもらえるだろうか」という不安の表れとも考えられる。不安解消のためにも、地域のサポート体制の充実が必要だ。今後の支えあいカードの登録をどのようにすすめていくのか。

A 地域への啓発、市の福祉部局との連携を進める。地域の「避難所運営委員会」(自治会等が運営)の設立と合わせて、取り組みを進めていく。

Q 今回、21ヶ所で「拠点福祉避難所」が指定されたことを評価するが、今後もさらなる増設と「福祉避難室」の指定が必要だ。進捗状況と今後の見通しはどうか。また民間の福祉事業者、特別支援学校、大学、民間のホテル等の施設との連携・活用を考えたのはどうか。

A 「福祉避難室」は各小学校区に1ヶ所以上指定する方針であり、運営や人員の確保などの課題解決をした上で指定を進める。「拠点福祉避難所」については民間事業者に協力を求めるとともに、特別支援学校や福祉系大学の指定についても検討していく。

Q 難病の方々の避難・支援のあり方についてどのように進めていくのか。医療機関との連携はどのようになっているのか。

A 専門性の高いサービスを必要とする方について、今後災害時における具体的な支援について把握を行い、必要に応じ、医療機関等との連携を図っていく。

Q 地域で避難所運営委員会の結成が急がれるが、今後、非常時・平常時を問わず、地域で災害時の「ボランティア」の掘り起こしを行い、登録していく制度を進めるべきと考えるが、見解は。

A 市の「避難所運営マニュアル」では、要援護者が避難所で安全に生活できるよう、地域の民生委員・看護師・介護福祉士・ホームヘルパー等の有資格者を運営する際の基礎データとして登録している。今後、避難所運営委員会の設立とともに「ボランティア」の掘り起こしについても地域に働きかけていく。

## 「福祉避難所」とは？

### ①【福祉避難室】

高齢者や障がいのある人など、避難生活に困難が生じる方々へのため、通常の避難所の中に設置される特別の場所・空間。当事者の家族も入れる。各小学校区ごとに1箇所以上を指定する方針。

### ②【拠点福祉避難所】

高齢者などのケア・サービスが必要な人のために指定される避難所。民間の社会福祉施設などが想定される。専門的なケア・サービスが受けられる。避難所とは別の場所になるため、2次的な避難所とされる。

## 亀井はこう考える！

NHKの福祉番組によれば、3・11の震災において障がいのある人の死亡率は一般の人の2倍とのこと。被害が大きくなれば、この死亡率の差はさらに大きくなるとの専門家の意見が紹介されていました。地域での「見守り」「助けあい」体制の整備が急がれます。

また、「避難所」では、障がいのある方々や高齢者が生活しづらい環境にあることが明らかになっています。本市でも「災害時要援護者」の方々に配慮した専門の「福祉避難所」の整備が急がれます。

今後、地域における自治会・自主防災組織・民生委員等の組織を中心に「避難所運営委員会」が設立されますが、運営・要援護者支援のためには、地域に存在するさまざまな資格や技能を持った市民やボランティア精神あふれる方々の力も必要です。若い世代の力も必要です。平常時から体制の構築が重要です。地域でこうした体制をつくっていくことは、平常時の「支えあい」「助け合い」ということにもつながっていきます。

## 防災への備えを始めましょう！

まずは自分の身は自分で守る！

「阪神大震災」では被害者の8割が家・家具が倒れて亡くなっています！

- ・重い物は高いところに置かない。
- ・寝る場所に気をつける。(物が倒れない所に)
- ・家具の固定化。
- ・自宅の耐震化・不燃化。

→「耐震診断」「耐震化」の補助を行っています。

詳しくは 市住宅政策課(245-5896)

もしもの時、家族との連絡体制は？

- ・あらかじめ避難場所や連絡方法を決めておきましょう。
- ・災害用伝言ダイヤル「171」を利用しましょう。災害時でもメッセージを吹き込み、家族とやり取りができます。毎月1、15日は体験できますので、今からご家族で練習されてみてはいかがでしょうか。

# お問い合わせ・ご意見コーナー

～皆様からいただいたご意見とその回答を紹介してまいります～

①「中学生の子供がいます。『高原千葉村』へ修学旅行に行くのですが、放射能や昨年起きたウォークラリーでの事故のことがあり、行かせるのが心配です。調べてほしい。(同様のご意見他2件)」

**亀井** 高原千葉村(群馬県利根郡みなかみ町)の放射線量については、5月15日(火)に亀井が直接現地にて調査してまいりました。放射線量は以下の通りです。現地では、市として4月に線量の高い部分の芝生を剥がすなどの対策を講じ、線量の低減に努めています。

また、生徒の安全の確保のため、昨年度より「ウォークラリー」は中止し、全員参加型での「ハイキング」を実施しているとのことです。

## 「高原千葉村」の放射線量を測定してきました！(亀井調査)

### 高原千葉村の放射線量調査結果 (5月15日)

場 所	亀 井 調 査	
	地上1メートル	地 面
市 民 ロ ッ ジ	0.122～0.223	0.152～0.213
青少年自然の家	0.173～0.178	0.142～0.201
キ ャ ン プ 場	0.159～0.230	0.192～0.327
パークゴルフ場	0.124～0.201	0.104～0.245

天気:小雨 単位は毎時マイクロシーベルト 値は最小値と最大値を掲載。  
測定器:ミスターガンマ(クリアパルス社、14万円)



②「中央図書館を利用していますが、ビデオやテープ等の視聴覚資料で劣化したものが多く、再生できないことがあります。市民が教養を高められるような図書館にしてほしいです。」

**亀井** 私も中央図書館をよく利用しております。この件については、今後の議会活動の中で、改善に向けて取り組んでまいります。貴重なご意見ありがとうございました。

## 市政へのご意見は。

TEL/FAX 043-255-8108 携帯電話 090-3694-4173  
(事務員もおらず、1人で活動しておりますので、留守が多いです。  
携帯電話か留守番電話にメッセージをお願いします！)

メール DQG06110@nifty.com お手紙も大歓迎です！



## 亀井たくまのプロフィール

1980年生まれ。椿森出身・在住。32歳。作草部幼稚園、都賀小、椿森中、市立千葉高、早稲田大学政経学部、同大学院公共経営研究科修了。行政書士。防災士。千葉市スポーツ推進委員。院内小スポーツ振興会委員、椿森中青少年育成会委員。ホームヘルパー2級。2007年の市議選は21票差で落選。2011年、5622票を頂戴し当選。

趣味は昭和時代の懐メロです。(懐メロ談義しませんか！)好きな歌手は灰田勝彦です。

※市議会では、現在「教育未来委員会委員」「大都市行財政制度調査特別委員会委員」「都市計画審議会委員」を任命されています。

市民の皆様と一緒にクリーン・あたたかな市政をめざします！

ワンコインカンパ(1口500円・複数口大歓迎!)にご協力ください。  
郵便振替口座 00190-7-456984 亀井たくまと亀の歩みの会

最後までお読みくださいますと、ありがとうございました！